



香里ヶ丘



2024年 春号

ティーンズ通信



10代の方へおすすめの本やニュースを発信する

「香里ヶ丘ティーンズ通信」春号です。

様々なお花が咲いてお散歩が楽しい春がやって来ました！

春といえば、新しいことを始めるのにピッタリの季節ですね。

図書館で新しいジャンルの本にチャレンジするのはいかがですか？



『彼の名はウォルター』

エミリー・ロッド / 著, 文

さくま ゆみこ / 翻訳

出版社：あすなる書房

出版年月：2022年1月



バスが故障してしまい、古びた屋敷で一夜を過ごすことになった4人の少年少女と先生。主人公の少年は屋敷の中で隠されていた1冊の本を発見します。本のタイトルは「彼の名はウォルター」。内容は主人公ウォルターと魔女や言葉を話す動物のおとぎ話のような物語。主人公は何故かこの本を最後まで読まなければという衝動に突き動かされます。一方で、現実の世界では床に血のような跡が見つかったり、どこからかうなり声が聞こえたり、徐々に不穏な雰囲気となっていくます。

一体この本は何なのか？ウォルターとは誰なのか？この屋敷では過去に何があったのか？雷鳴轟く中、懐中電灯の光で読み進める主人公の緊張感が伝わってきて一晩で一気に読んでしまうサスペンス小説です。

『時速47メートルの疾走』

吉野 万理子 / 著

出版社：講談社

出版年月：2014年9月



体育祭の罰ゲームをめぐる四人の中学生の連作短編です。

部活での人間関係、親の再婚相手との関係、多感な時期の彼らの悩みは、読んでみると大人の私ですら重くせつなくなります。しかし、キャラクターの描写が実に上手いので、この四人なら悩みもうまく乗り越えるだろうと思ってしまいます。思春期は自分が他人からどう見られるか特に気にする時期です。思いが言葉でしか伝わらず傷つくことも多いでしょう。そんな繊細な時代の四人のストーリーに読む手が止まりません。そして、読み終わった時のじわりとくる爽やかさ、見事としか言いようがないのです。それがこの本書の魅力です。

スタッフおすすめの1冊

図書館について知ろう！



このコーナーでは、図書館について意外と知られていない「豆知識」をご紹介します！「豆知識」が増えると、本を自分で探しやすくなったり、図書館の便利な利用法が見つかったり、図書館をもっと好きになるかもしれません。

閲覧席と自習席って？

香里ヶ丘図書館の1階には、「閲覧席」と「自習席」があります。閲覧席と自習席の違いとは・・・？

閲覧席・・・図書館の資料（本、雑誌、新聞）を読んだり、調べものをしたりすることができます。空いている席があれば、誰でも自由に座ってもらえます。閲覧席では、学校の宿題などの勉強はお断りしています。

自習席・・・学校の宿題などの勉強ができます。もちろん図書館の本を読ために利用することもできます。自習席を使うときは、最初にカウンターで手続きをして席の札をもらう必要があります。

※自習席は1階12席、2階32席あります。2階は曜日によって空いている時間がことなりますので、詳しくは図書館スタッフまでお尋ねください。

また、パソコンは2階の自習席のみ使用できますので、使う方は2階をお願いします。コンセントは使えませんので、ご注意ください。

開架と書庫ってなに？

図書館やインターネットで本を検索したことがある人は、「開架」と「書庫」という言葉を目にしたことがあるかと思います。

「開架」とは、図書館における本棚のことで、来館した皆さんが自由に本を見ることができるところです。

一方、「書庫」とは、図書館スタッフしか入れない倉庫にある本棚のことをいいます。一般的に図書館の書庫には、古い本や雑誌のバックナンバーなど開架に置ききれない資料が置かれています。

書庫にある資料が見たい時は、図書館スタッフに頼むとすぐ取ってきますので、気軽に声をかけてくださいね！

ちなみに・・・香里ヶ丘図書館では、「開架」と「書庫」の本をすべて合わせて**約10万冊**を所蔵しています！

香里ヶ丘図書館ホームページ <https://www.korilib-hirakata.com/>



<https://www.facebook.com/korilib/>



<https://www.instagram.com/korilib/>



<https://www.korilib-hirakata.com/>

